

手がけるアスカインテック
ス(東京)が水俣市に設け

県

クリーンルームでウエハーの洗浄工程を
見学する県立高の生徒ら＝8日、水俣市

宅地の地盤 安全対策を助言



地盤品質判定士による擁壁調査の様子＝10月28日、宇城市(地盤品質判定士会九州支部提供)

地震など災害の増加に伴い、宅地の安全性を評価する「地盤品質判定士」の役割が高まっている。宅地の地盤に不安を持つ人に対応しようと、地盤品質判定士会九州支部は21、22日、グランメッセ熊本(益城町)で無料相談会を開く。

「品質判定士」災害増で注目

21、22日 益城町で無料相談会

地盤品質判定士は、東日本大震災など地震による「地盤災害」が相次いだことを受けて、地盤工学会(東京)が中心となり2013年に創設した資格。専門知識と調査を基に、必要な対策を客観的に助言する。有資格者は4月1日時点、全国で1252人。県内では17人が活動し、16年の熊本地震後は家屋の建て替えを検討する人から相談が相次いだ。

九州支部長の笠間清伸・九州大学院教授(防災地盤工学)によると、昨今の課題は「大規模盛り土造成地」の安全性。高度経済成長期に谷や沢を埋め立てて造られ、地震や大雨で建物が傾くなどの被害が出る可能性があるという。

判定士は擁壁のひびなどを手掛かりに地盤の状態を推測する。相談会では写真や図面があると参考になるという。笠間教授は「上物に目が行きがちだが、原因は地盤にあるかもしれない。詳細な調査の後に地盤補強や地下水を抜くことで対策することもできる」と話す。

相談会は「先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本」内で開き、これから家を建てる人の土地選びもサポートする。午前10時から午後4時。申し込みは九州支部のホームページから。当日参加も可。22日は判定士による講演会もある。

(東菅晃)



ク...の県